

テーマ

国府が元気になるために

事業実施地区（中学校区名）	浜田東中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	浜田市立国府公民館

テーマの背景

国府地域はもっともっと元気で豊かになれる。そのためにはふるさとのすばらしさを子供や大人も再認識しなくてはならない。そのためには、数多い国府の歴史や文化を学び、恵まれた環境を再認識し、未来への希望を信じて行動することが大切である。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：国府学

<取組の概要>

国府の歴史や宝、そして多くの文化財や自然環境を学び、子供たちや地域住民のプライド意識を呼び起こす。

国府は石見地域文化財や自然環境の宝庫と言えるほどの多くの資産を有する。その事実を学ぶことにより、当たり前であったことがすばらしく、また誇らしいことであると再認識することが必要である。

過去の歴史を振り返りふるさとを再発見することにより、現在、未来への展望が見いだせる。

<成果と課題>

歴史から始まり、地域に引き継がれた文化や自然環境、そして未来への可能性について幅広く学ぶことになった。その過程で、公民館の企画による受身の意識から自ら演出者となる行動につながり、学びをとおして地域の人たちの湧き起こる好奇心による自主活動へと発展したことが大きな成果と言える。

この進化を地域全般に広げることが公民館の新たな課題である。

③子供たちに伝えたいテーマ・題材の事業実施

事業名：SAKE プロジェクト

<取組の概要>

地域の人口減少問題の多くは、育った子供たちがふるさとに帰ってこないことである。多くの原因があるが、その解決方法としてふるさとの良いところの多くを体験させ、人格形成の過程にふるさとイズムを焼き付けることが解決策になりえる。

子供の体験活動として、地域に長く続いてきた鮭の放流活動に目をつけるとともに、活動組織の代表、地域の小中学校、そして養護学校や水族館アクアスの職員や公民館活動の大人も巻き込んだ。

<成果と課題>

鮭放流活動の設立者との話し合いのなかで、本来、地域の小学校が活動の拠点であったことや、学校の先生や県立水族館アクアスの職員や志を同じくする人たちと活動を続けてきたことと親睦を大切にしてきたことを聞き、この活動を公民館活動として関わらせてもらう事に理解してもらったので、比較的スムーズに活動に入ることが出来た。

また、これまでの公民館活動に縁のあった県立大学金野ゼミも積極的に関わり、学びのネットワークを構築することが出来たことも大きな成果である。

3月放流には学びのネットワークをより強固なものにするとともに、地域住民にも放流現地に集合してもらい、新年度につなげる。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

国府学は2年目となり、町内単位で動き始めたのでその推移を見守りたい。また、地域資源を再発見する事にもなり、特産品としての新しいブランド品を育て、地域の産業興しへの自立行動が期待できる。

鮭の放流活動は継続してこそ成果と成り得るので、公民館活動の目玉として「元気プロジェクト」の大きな事業に育てる。

今後の展望

「国府学」は「地域学」としてまちづくりの中心活動となるよう、公民館として支援する。

SAKE プロジェクトは「継続は力なり」の言葉のとおり、これまで運営されてきた地域組織を大切にしながら、国府地域全般に広がる大きな地域活動に育て、浜田市公民館活動の指標としたい。